12　厳島神社と五重塔 ～神仏習合の歴史と文化

【全４回】／開催方法：

加藤（かとう）みち子
武蔵野大学仏教文化研究所　特任教授
中村元東方研究所
主任研究員

受講料	会員料金：￥9,000　早割価格：￥8,000（納入期限：8月12日）

［日程・時間］【全４回】　8月19日（金）13：30～15：00・15：20～16：50
8月20日（土）13：30～15：00・15：20～16：50

■受講に必要なもの
［テキスト］レジュメ配布

広島湾南西部に浮かぶ厳島に鎮座する厳島神社は、世界文化遺産にも指定された人気の神社ですが、中世には神仏習合をしていたことはあまり知られていないようです。今回は、厳島神社と五重塔を柱として、仏教と神道がどのような関わりをもちつつ発展していったのかを読み解いていきます。

１時限目　平清盛・『平家納経』と厳島神社
厳島神社といえば、平清盛の『平家納経』が有名ですが、ここにも「神仏習合」が読み取れます。
清盛は、なぜ『平家納経』を厳島神社に収めたのか。それ以前の厳島神社はどういう存在であったのか。ご祭神はどんな神様なのかということを、資料やスライドを見ながら検討していきます。

２時限目　宗像三女神から弁財天へ
厳島神社のご祭神は、宗像三女神ですが、宗像大社と厳島神社はどういう関係なのでしょうか。また、厳島神社で有名な「弁財天」と宗像三女神はどのような関係なのでしょうか。ここでは、女神たちの流転と変遷に注目し、厳島神社の神仏習合を読み解きます。

３時限目　宇賀神とはどんな神様か―仏教との関係
弁財天というと、通常は音楽神たる女神ですが、弁財天の中には独特の様相をした「宇賀弁財天」という神様がいます。厳島の弁財天は、宇賀弁財天の姿で描かれることもありますので、ここでは、宇賀弁財天を中心に、仏教の影響を検討します。

４時限目　厳島神社と両部鳥居
厳島神社といえば、海上にうかぶ大鳥居が、いわばシンボルとして有名ですが、この鳥居のスタイルは「両部鳥居」といいます。両部というのは神仏習合の両部神道のこと。そこで、厳島神社と両部神道の関わりについて検討し、中世厳島神社の神仏習合の展開をみていきます。

【参考文献】
・小松茂美『平家納経の研究』講談社、1976年
・『不滅の建築４厳島神社』毎日新聞社、1988年
・野坂元良編『厳島信仰事典』、戎光祥出版、2002年
・原田佳子『厳島神社の祭礼と芸能の研究』芙蓉書房出版、2010年
・三浦正幸『平清盛と宮島』、南々社、2011年
・神道大系・神社編40『厳島神社』、1987年
・『広島県史　中世』広島県、1980年